

令和4年度徳島県田園環境検討委員会  
環境配慮実績報告書

徳島県 農山漁村振興課

令和5年3月



番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
46	H23	経営体育成基盤整備事業	長生西部大原工区(阿南市)	ほ場整備(排水路)	水生植物(オグラコホネ、アイノヒルムシロ)	②最小化	・生育環境復元のため、幹線排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とする。	②最小化	・計画どおり(排水路底版部を現地発生石を利用した多孔質(石張)とし、個体を水路完成後に移植)。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・オグラコホネの良好な生育を確認した(R4) ・アイノヒルムシロはここ数年確認できていない(R4)
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミス'カモジ、アセスケ)	⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、整備後の田畦に移植する。	④軽減/消失	・生育土壌(表土)を整備後の田畦に移植した。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・ミス'カモジの確認地点数は減少していた(R4) ・アセスケは確認できていない(R4)
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ノコナ)	⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、大原工区の類似環境へ移植する。	④軽減/消失	・生育土壌(表土)を整備後の類似環境へ戻した。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・ノコナの確認地点数は増加していた(R4)
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(フサスケ)	⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、大原工区の類似環境へ移植する。	④軽減/消失	・生育土壌(表土)を整備後の類似環境へ戻した。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・フサスケは確認できていない(R4)
46	H24	経営体育成基盤整備事業	長生西部大谷工区(阿南市)	ほ場整備(排水路)	水生植物(オグラコホネ)	②最小化	・生育環境復元のため、排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とする。	⑤代償	・近隣地区外水路へ移植した。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・オグラコホネの確認地点数は減少していた(R4)
				ほ場整備(水田表土)	希少植物(ミス'ワビ、ミス'マツバ)	④軽減/消失	・生育環境の復元のため、水田表土の再利用を行う。	④軽減/消失	・計画どおり(希少植物の種子を含む表土を剥ぎ取って保管し、整備後の水田の表土として再利用)。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・ミス'ワビの地点数はほぼ同等で、ミス'マツバの確認地点数は増加していた(R4)
				ほ場整備	希少植物(アオヒメダテ、ミス'タカモジ、アセスケ)	⑤代償	・生育地の土壌をブロック移植するとともに、種子を採取し移植先周辺に播種する。	④軽減/消失	・生育土壌(表土)を整備後の類似環境へ戻した。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・ミス'カモジの確認地点数は減少した(R4) ・アオヒメダテ、アセスケは確認できていない(R4)
				ほ場整備	希少植物(ミス'カモジ、ウマスケ)	⑤代償	・個体を類似地へ移植する。	⑤代償	・計画どおり(生息位置の確認後、移植する個体を採取し、一時的に仮移植。移植先の代償池を整備した後、本移植を行った)。	・R4春夏秋季モニタリング実施(R4) ・代償地でのミス'カモジは増加し、水路際に播種したものは、発芽し生育していた(R4) ・代償地でのウマスケは増加していた(R4)
63	H30	老朽ため池等整備事業	塚池(吉野川市)	ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	④軽減/消失	・種子・個体を採取し、播種・保護育成を行った。工事後工事後植戻す予定(H30) ・工事後、保護育成していたコカモヅルを3株、堤体部に移植した(R4.6月)	④軽減/消失	・移植した3株は、いずれも開花し、結実した。定着したと考える(R4.11月)	
66	H31	老朽ため池等整備事業	大師池(美馬市)	ため池堤体改修	希少植物(ミヤコイバラ)	④軽減/消失	・施工業者に保護の啓発を行うとともに、個体に影響を極力与えないよう、仮設道路や重機置き位置を選定する。	④軽減/消失	・計画どおり(施工業者に対して保護の啓発等を行った)(R4)	-
				ため池堤体改修	魚類等(コケカハセ、オオニ)	④軽減/消失	・施工時の減水期に個体を一時避難させ、施工後に同池に戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(工事実施前に個体を一時避難させた)(R4.11月)	未
67	R2	経営体育成基盤整備事業	長生中央	ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミス'カモジ、フサスケ、ウマスケ、オグルマ)	⑤代償	・できる限り多くの個体を採取し栽培して、工事後、田畔に植戻す。また、代替湿地の田畔に植戻す。	⑤代償	・ミス'カモジの種子採取を行い保管した(R4.5月) ・次年度(R5)施工範囲に生育しているミス'カモジ、アセスケ、オグルマの生育状況を確認(R4.5月)	未
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミス'オオハコ)	⑤代償	・ミス'オオハコの個体を採取し保護育成を行った(R4.8月~12月) ・R4.11月に開花	⑤代償	・ミス'オオハコの個体を採取し保護育成を行った(R4.8月~12月) ・R4.11月に開花	未

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
						④軽減/消失		④軽減/消失		
68	R2	老朽ため池等整備事業	第一金清池(阿波市)	ため池堤体改修	希少植物(コカメヅル)	④軽減/消失	・工事までに個体を避難させ、プランターにより保護育成した個体及び現地採取した種子を播種育苗したコカメヅルを、工事後の堤体に再移植する。	④軽減/消失	・今年度工事区域内のコカメヅル1個体を採取し育成した(R4.6月) ・また、結実期に現地に生育している個体から種子の採取を行った(R4.11月)	・現地採取したコカメヅル1個体の生育状況をモニタリング中(R4) ・9月に開花したが結実しなかった(R4)
				ため池堤体改修	魚類(モツゴ、シマヒヨシノホリ)	④軽減/消失	・施工時の減水に併せて個体を採捕し、同一水系で第1金清池と類似した環境のため池に分散避難させ、工事後戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(モツゴ、シマヒヨシノホリ)を採捕し、同一水系で第1金清池と類似した環境のため池(第2金清池)に分散避難させた(R2) ・R2に、下流水域に避難させた配慮対象種(モツゴ・シマヒヨシノホリ)の生息状況を確認するため現地調査を実施(R3・R4)	・R3年度の調査では、下流水域で、シマヒヨシノホリが多数採捕されたが、モツゴは採捕できなかった(R3) ・R4年度の再調査において下流水域でモツゴ、シマヒヨシノホリが多数採捕された(R4)
71	R3	老朽ため池等整備事業	土井の池(東みよし町)	ため池堤体改修	水生生物	④軽減/消失	・工事の際、水生生物の避難場所として、ため池内部に溜水域を確保する。	④軽減/消失	・計画どおり(ため池内部に溜水域を設け、水生生物(シマヒヨシノホリ)を避難させた)(R4)	未
77	R4	老朽ため池等整備事業	古志田池(吉野川市)	ため池堤体改修	希少植物(コカメヅル)	④軽減/消失	・コカメヅルの個体と種子を採取し、工事期間中個体を育成し、種子から苗の増殖を行い、工事後の堤体に植え戻す。	④軽減/消失	・種子採取後、播種し保護育成中(R4.11月) ・次年度(R5)に個体採取を予定	未

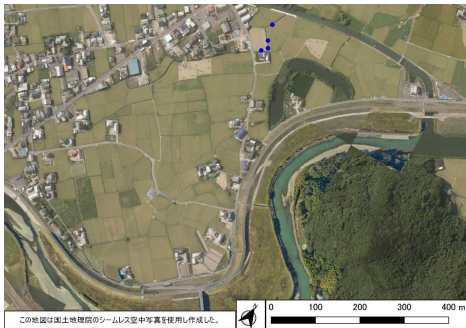
事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生西部 大原工区	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	H23

### 環境配慮の内容：②最小化

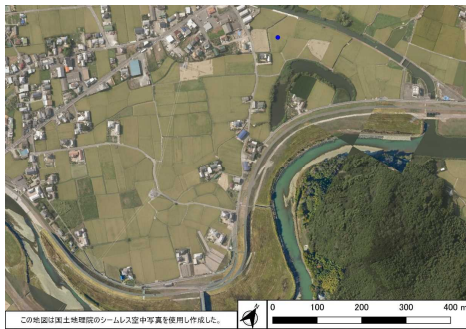
排水路底板部を現地発生石を利用した多孔質（石張）とし、オグラコウホネ、アイノコヒルムシロの個体を水路完成後に移植し、生育状況確認のための調査を実施した。

#### ②最小化

令和4年度、オグラコウホネ・アイノコヒルムシロの生育状況確認のための調査を実施した。



オグラコウホネの生育確認状況 (H22.9.23)



オグラコウホネの生育確認状況 (R4.10.26)

配慮対策を実施した箇所のみ生育が、確認された。



幹線排水路に移植したオグラコウホネの生育確認 (R4.10.26)

令和4年10月26日、オグラコウホネの良好な生育を確認したが、アイノコヒルムシロはここ数年確認できていない。

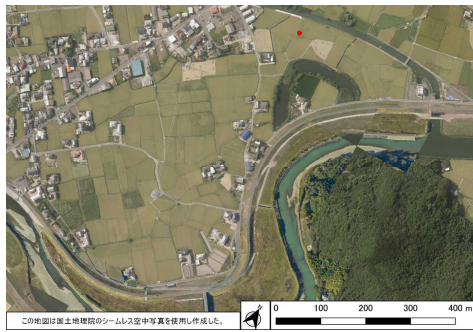


事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生西部 大原工区	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	H23

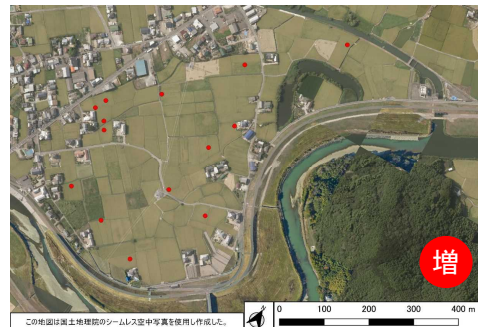
環境配慮の内容：

R4年度、ほ場整備後に生育する希少植物について重点調査を行い、配慮対策の有効性を検証した。

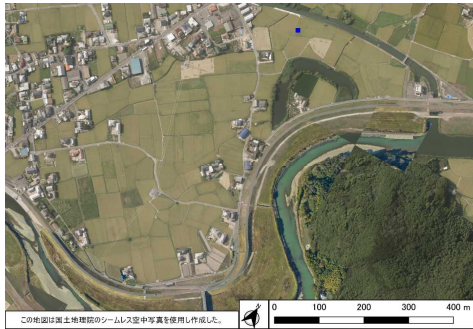
希少植物は圃場整備前は11種で、圃場整備後は8種となり、フサスゲ、アゼスゲ、カワヂシャの3種が確認されなかった。  
 確認地点数ではヒメミズワラビ、ミズマツバ、スズメノハコベ、オグルマ、ノニガナの5種が増加し、オグラコウホネ、ミズタカモジグサは減少した。



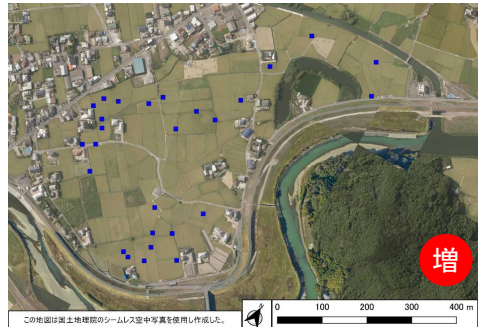
ヒメミズワラビ確認地点数(H22年)



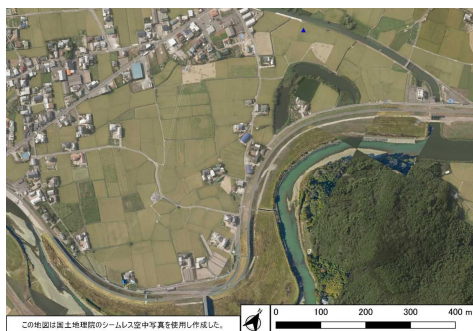
ヒメミズワラビ確認地点数(R4年)



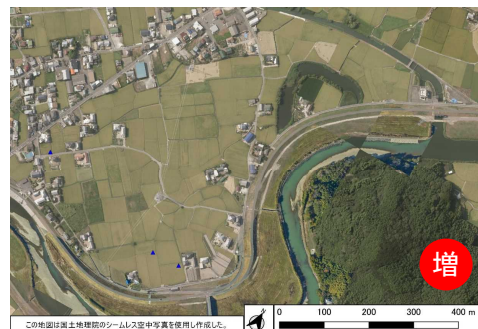
ミズマツバ確認地点数(H22年)



ミズマツバ確認地点数(R4年)



スズメノハコベ確認地点数(H22年)



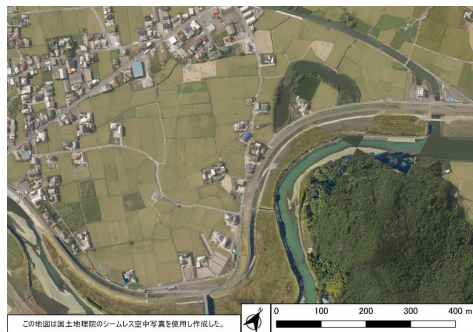
スズメノハコベ確認地点数(R4年)

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生西部 大原工区	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	H23

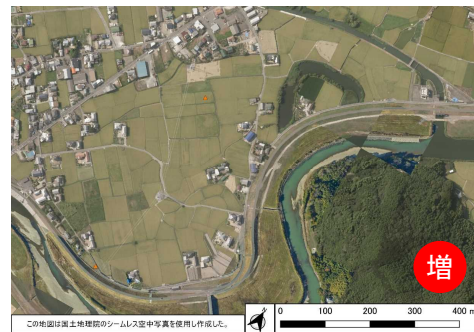
### 環境配慮の内容：

R4年度、ほ場整備後に生育する希少植物について重点調査を行い、配慮対策の有効性を検証した。

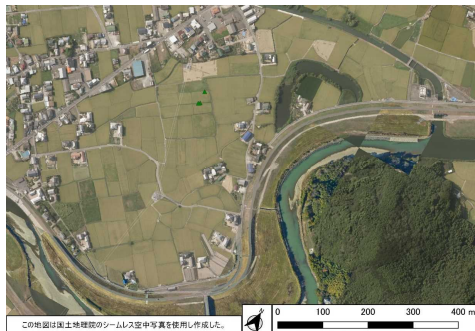
水田表土の再利用は水田内に生育する多くの希少植物の配慮対策として有効であることが再確認された。一方、土水路周辺に生育する種(フサスゲ、アゼスゲ、ミズタカモジグサ)については個体移植などの配慮対策を行う必要があることがあらためて明らかとなった。



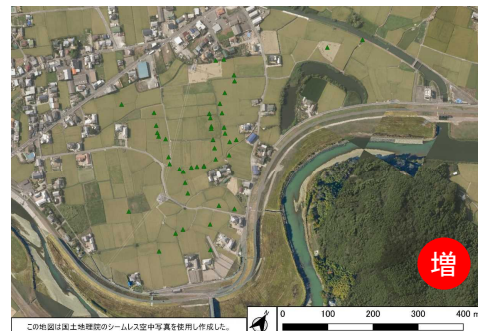
オグルマ確認地点数(H22年)



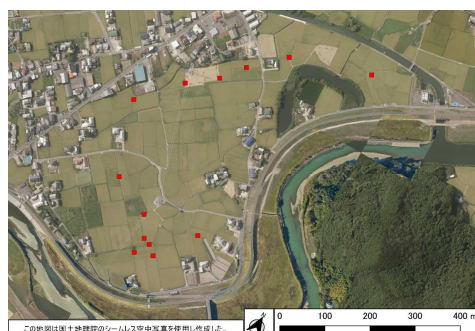
オグルマ確認地点数(R4年)



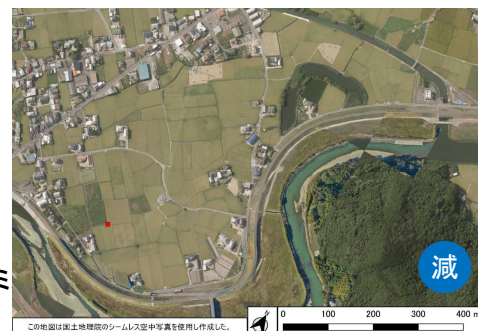
ノニガナ確認地点数(H22年)



ノニガナ確認地点数(R4年)



ミズタカモジグサ確認地点数(H22年)



ミズタカモジグサ確認地点数(R4年)



事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生西部 大谷工区	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	H24

### 環境配慮の内容：⑤代償

地区内に代償地（ビオトープ池）を創出し、ミズタカモジグサ・ウマスゲを移植。また、水路際にミズタカモジグサの種子播種を行い、モニタリングを実施。

#### ⑤代償

令和4年度、ミズタカモジグサ・ウマスゲを移植したビオトープ池の維持管理及びモニタリングを実施した。



ビオトープ池の維持管理前(R4.7.13)



ビオトープ池の維持管理後(R4.7.13)

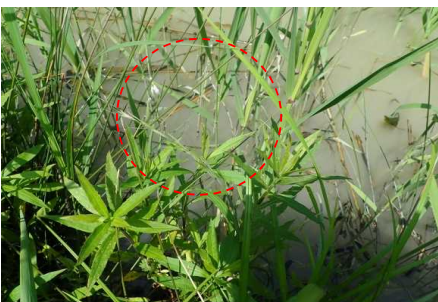
・ビオトープ池でのミズタカモジグサとウマスゲは増加し、水路際に播種したミズタカモジグサは、発芽し生育していた。



ビオトープ池の管理状況(R4.4.28)



ビオトープ池のミズタカモジグサ(R4.4.28)



水路際のミズタカモジグサ(R4.4.28)



ビオトープ池のウマスゲ(R4.4.28)



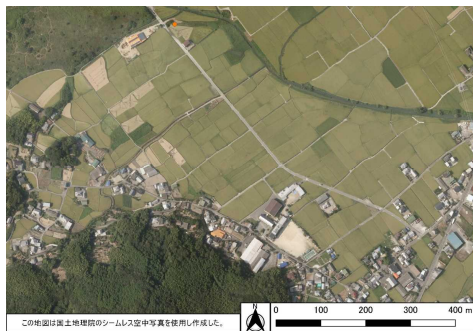
事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生西部 大谷工区	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	H24

### 環境配慮の内容：

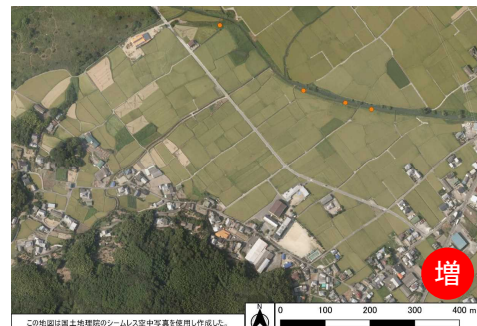
R4年度、ほ場整備後に生育する希少植物について重点調査を行い、配慮対策の有効性を検証した。

希少植物は圃場整備前は9種で、圃場整備後は9種となり、アゼスゲとアオヒメタデの2種が確認されなかった一方、オグルマとノニガナが新たに確認された。

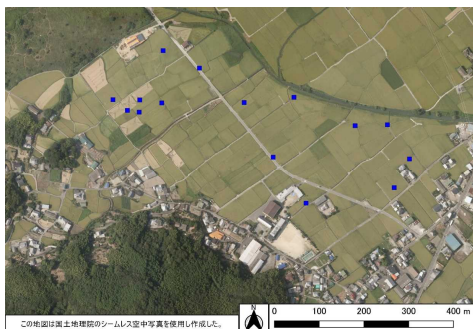
確認地点数ではウマスゲとミズマツバが増加し、オグラコウホネ、ミズタカモジグサ、カワヂシャが減少した。



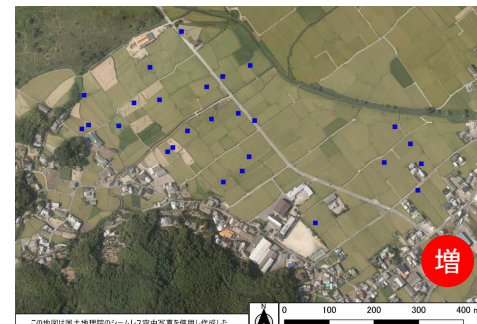
ウマスゲ確認地点数(H24年)



ウマスゲ確認地点数(R4年)



ミズマツバ確認地点数(H24年)



ミズマツバ確認地点数(R4年)



オグラコウホネ確認地点数(H24年)



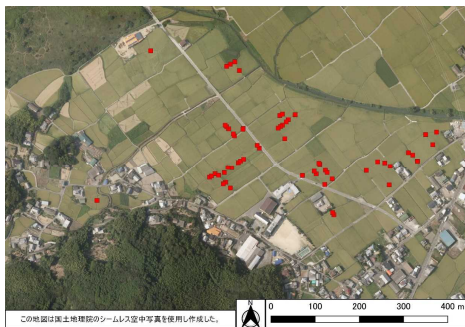
オグラコウホネ確認地点数(R4年)

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生西部 大谷工区	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	H24

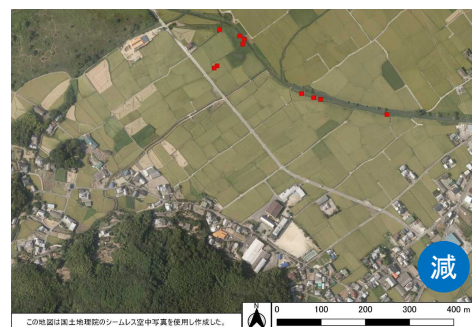
環境配慮の内容：

R4年度、ほ場整備後に生育する希少植物について重点調査を行い、配慮対策の有効性を検証した。

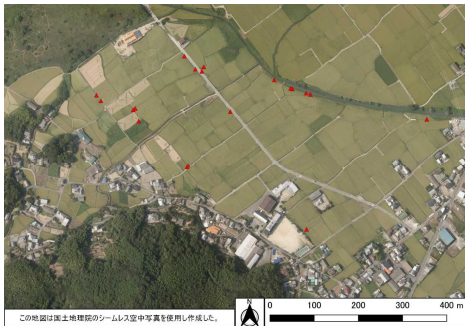
オグルマとノニガナのように、周辺にシードソースがある場合には、個体移植や播種などの配慮対策を行わなくとも、圃場整備後の畔などに出現する可能性が高いことが明らかとなった。



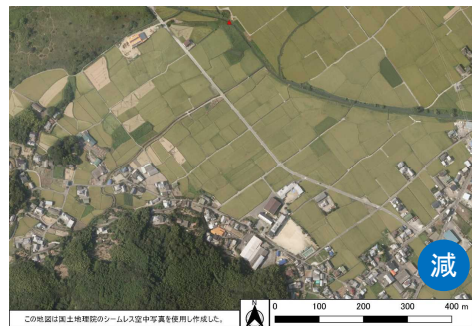
ミズタカモジグサ確認地点数(H24年)



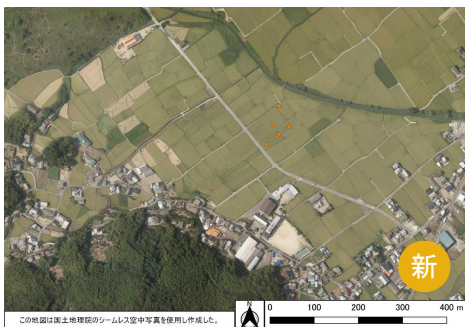
ミズタカモジグサ確認地点数(R4年)



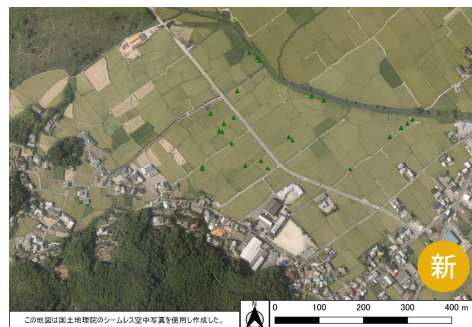
カワヂシャ確認地点数(H24年)



カワヂシャ確認地点数(R4年)



オグルマ確認地点数(R4年)



ノニガナ確認地点数(R4年)



事業名	老朽ため池等整備事業	地区名	塚池	市町村	吉野川市
事業所名	東部農林水産局<吉野川>	課名	農村整備担当	採択年度	H30

### 環境配慮の内容：④軽減/消失

希少植物（コカモメヅル）の個体を土壌とともに採取、保護育成し、工事後植戻しする。

#### ④軽減/消失

平成30年9月14日に、希少植物（コカモメヅル）の事前調査を実施し、確認された6個体を土壌とともに採取し、保護育成を行った。



コカモメヅルの個体を土壌とともに採取(H30.9.14)



コカモメヅルの保護育成(H31.3.17)

令和4年6月28日、保護育成してきたコカモメヅル3個体を、堤体部に移植しモニタリングを行う。（令和2年秋、6個体のうち、3個体が生育不良で枯渇、消失した。）



コカモメヅルの移植状況(R4.6.28)



コカモメヅルの移植状況(R4.6.28)



コカモメヅルの開花状況(R4.7.7)



コカモメヅルの結実状況、3個体とも定着した。(R4.11.4)

事業名	老朽ため池等整備事業	地区名	大師池	市町村	美馬市
事業所名	西部総合県民局<美馬>	課名	農村保全担当	採択年度	R1

### 環境配慮の内容：④軽減/消失

施工業者に保護の啓発を行うとともに、個体に影響を極力与えないよう、仮設道路や重機仮置き位置を選定する。  
施工時の減水期に個体を一時避難させ、施工後に同池に戻す。

#### ④軽減/消失

計画どおり、希少植物（ミヤコイバラ）に関する保護を施工業者に啓発を行い、重機械の仮置き位置や油の流出など生育環境に配慮した施工方法に努めた。

また、魚類等（ゴクラクハゼ、オオタニシ）の個体を同様の生育環境にあると想定されるため池に一時的に避難させた。



啓発状況（令和4年11月）



落水後、オオタニシの個体を捕獲  
（令和4年11月）



捕獲した個体を  
近隣ため池に避難  
（令和4年11月）



事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生中央	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	R2

### 環境配慮の内容：⑤代償

できる限り多くの個体を採取し栽培して、工事後、田畔に植え戻す。また、代替湿地の田畔に植え戻す。

#### ⑤代償

種子及び苗の採取計画に基づき、次年度(R5)施工範囲の希少植物の事前調査を行い、ミズタカモジグサの種子を採取し保管した。



希少植物の事前調査(R4.5.27)



ミズタカモジグサの生育確認(R4.5.27)



ミズタカモジグサの種子採取状況(R4.5.27)



採取したミズタカモジグサの種子(R4.5.27)

種子及び苗の採取計画に基づき、次年度(R5)施工範囲の希少植物の事前調査を行った。



アゼスゲの生育確認(R4.5.27)



オグルマの生育確認(R4.5.27)

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生中央	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村整備第一担当	採択年度	R2

### 環境配慮の内容：⑤代償

ミズオオバコが生育している土壌を仮置きしておき、工事後、類似環境の田に再利用する。

#### ⑤代償

ミズオオバコの個体を採取し保護育成を行い、モニタリングを実施した。



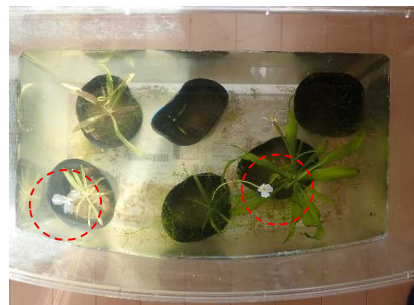
ミズオオバコの個体採取状況 (R4.8.22)



ミズオオバコの植替え状況 (R4.10.10)



ミズオオバコの開花状況 (R4.11.28)



ミズオオバコの開花、生育状況 (R4.12.12)



事業名	老朽ため池等整備事業	地区名	第一金清池	市町村	阿波市
事業所名	東部農林水産局<吉野川>	課名	農村整備担当	採択年度	R2

### 環境配慮の内容：④軽減/消失

コカモメヅルの個体と種子を採取し、工事期間中個体を育成し、種子から苗の増殖を行い、工事後の堤体に植え戻す。

#### ④軽減/消失

令和4年6月28日、希少植物（コカモメヅル）の生育状況確認のため、事前調査を実施し、今年度工事区域内の1個体を採取した。



コカモメヅルの事前調査(R4.6.28)



コカモメヅルの個体採取(R4.6.28)

令和4年11月4日、コカモメヅルの結実時期に、種子の採取を行った。



コカモメヅルの種子採取状況(R4.11.4)

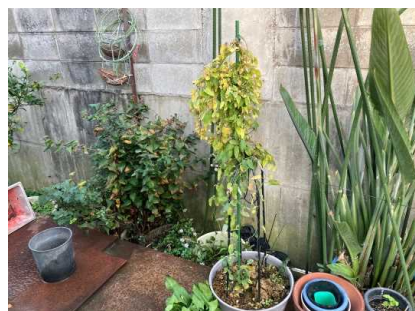


採取したコカモメヅルの袋果(R4.11.4)

採取したコカモメヅル1個体が9月中旬に開花したが、結実しなかった。



コカモメヅル個体の開花状況(R4.9.17)



コカモメヅル個体の育成状況(R4.11.26)

事業名	老朽ため池等整備事業	地区名	土井の池	市町村	東みよし町
事業所名	西部総合県民局<三好>	課名	農村保全担当	採択年度	R3

### 環境配慮の内容：④軽減/消失

工事の際、水生生物（シマヒレヨシノボリ）の避難場所として、ため池内部に溜水域を確保する。

#### ④軽減/消失

池内の上流部に溜水域を確保し、シマヒレヨシノボリ等の水生動物を捕獲し、避難させた。



池内部での捕獲状況



池下流部での捕獲状況



捕獲個体



捕獲個体(シマヒレヨシノボリ)



溜水域への避難状況



溜水域への避難状況



事業名	老朽ため池等整備事業	地区名	古志田池	市町村	吉野川市
事業所名	東部農林水産局<吉野川>	課名	農村整備担当	採択年度	R4

### 環境配慮の内容：④軽減/消失

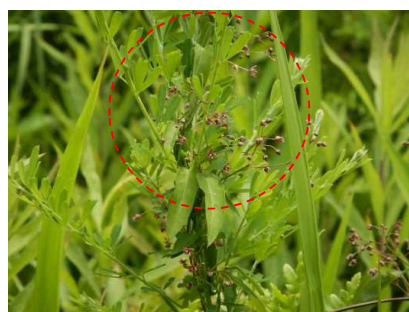
コカモメヅルの個体と種子を採取し、工事期間中個体を育成し、種子から苗の増殖を行い、工事後の堤体に植え戻す。

#### ④軽減/消失

令和4年6月28日、希少植物（コカモメヅル）の生育状況確認のため、事前調査を実施した。



コカモメヅルの事前調査(R4.6.28)



コカモメヅルの開花状況(R4.6.28)

令和4年11月4日、コカモメヅルの結実時期に、種子の採取を行った。



コカモメヅルの種子採取状況(R4.11.4)



採取したコカモメヅルの袋果(R4.11.4)

令和4年11月29日、コカモメヅル種子の発芽状況試験のため播種を行った。



コカモメヅル種子の播種状況(R4.11.29)



コカモメヅル種子の播種状況(R4.11.29)

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
1	H15	土地改良総合整備事業	昭和2期(阿波市)	農業用水のハイライン化	水生動植物	④軽減/消失	・パイプライン化に伴い不要となる開水路を存置し、地元関係者の協力のもと用水を流す。	④軽減/消失	・地元関係者の協力により、開水路を残し、用水を流下させている。	・工事前と同様の環境を保全。
2	H15	土地改良総合整備事業	上喜来2期(阿波市)	農道(現道拡幅)	希少植物(カウチヤ)	①回避 ⑤代償	・農道の路線変更もしくは移植する。	-	・対策なし(付近広範囲に生息を確認でき、専門家は対策不要との見解)	-
				農道測溝水路	水生動植物	②最小化	・水路側壁を環境配慮型のブロックとする。	②最小化	・計画どおり(緑草ブロックの設置)。	・植物の繁茂を確認。
3	H15	中山間地域総合整備事業	相生中央(那賀町)	水路	希少植物(ユキモチソウ)	②最小化 ④軽減/消失	・工事に際し痛めないよう作業員に注意喚起する等行う。	④軽減/消失	・生育箇所をロープで囲った。	・開花を確認(H19.4)。
				取水堰改修	甲殻類(ヤマスマエビ)	②最小化	・遡上できる構造とする。	②最小化	・計画どおり(石張りスローフ構造)。	・堰の上下流で個体確認(H19夏・秋)。
				区画整理	魚類等(トシウ等)	①回避 ②最小化	・水田内のよけ(山際の土水路)を残す。	②最小化	・計画どおり(水田内のよけ(山際の土水路)を再設置)	・個体確認(H19夏・秋)。
				区画整理(畦畔)	農村環境・景観	②最小化	・適切な畦畔の管理、もしくは石積み再利用。	②最小化	・計画どおり(石積みの再利用)。	-
4	H15	農免農道事業	池田2期(池田町)	農道(横断暗渠)	魚類(ナガレホトシヅク)	②最小化	・遡上できる構造とする。	-	・事業計画の見直しで地区外へ(池田地区で対応)。	-
				農道	魚類(ナガレホトシヅク)	④軽減/消失	・工事区域に取り残された個体を上流へ移動させる。	-	・事業計画の見直しで地区外へ(池田地区で対応)。	-
				農道(側溝)	徘徊性動物(ヒキカエル等)	②最小化	・移動経路を確保するため、落下しないあるいは這い上がれる構造とする。	-	・事業計画の見直しで地区外へ(池田地区で対応)。	-
				農道	希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)	①回避 ⑤代償	・路線変更もしくは移植する。	-	・対策なし(付近広範囲に生息を確認でき、専門家から配慮不要との見解)。	-
5	H15	農免農道事業	美馬中野2期(美馬市)	農道	希少植物(ヤブサンザシ)	①回避 ⑤代償	・路線変更もしくは移植する。	-	・着手前に消失(イノシシの糞を仕掛けるとして除去された)。	-
6	H15	老朽ため池等整備事業	水晶池(鳴門市)	ため池堤体改修	在来植生	②最小化 ④軽減/消失	・堤体上流側法面を自然型擬石ブロック張等により植生空間を創る。 ・堤体下流側法面に現況法面の表土を張る。	②最小化	・計画どおり(自然型擬石ブロック張)。	・在来植生を確認(平成19年夏・秋)
				ため池堤体改修	希少植物(オホハイ、キクモ)	②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償	・堤体上流端を緩傾斜土羽護岸とする。 ・工事期間中、たまり水を創設し一時移動する。	②最小化	・計画どおり(堤体上流側端部を緩傾斜の土羽としたとともに、工事期間中は浅瀬の水たまりを創設)。	・在来植生を確認(H19夏・秋)
				ため池堤体改修	貝類(モアマガイ)	②最小化 ④軽減/消失	・工事における改変を極力抑え、重機から油類を流出、飛散させない。	④軽減/消失	・計画どおり(工事期間中浅瀬の水たまりを創設)。	-
7	H15	老朽ため池等整備事業	池谷池(阿波市)	ため池堤体改修	在来植生	②最小化	・堤体上流側法面を自然型擬石ブロック張とする。	②最小化	・計画どおり(堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施)。	・在来植生を確認(H18.8)
8	H15	河川応急対策事業	長岸寺西(松茂町)	水門改修(取合水路含む)	在来水生植物(ヒシ、ハス等)	⑤代償	・コンクリート水路の側壁部及び底板部に植生ヤシマットを設置する。	⑤代償	・計画どおり(コンクリート水路の側壁部及び底板部に植生ヤシマットを設置)。	未
				水門改修(取合水路含む)	在来植生	④軽減/消失	・堤体法面部盛土に現況の植生土壌を使用する。	④軽減/消失	・計画どおり(堤体法面部の盛土に現況の植生土壌を使用)。	未
9	H15	地盤沈下対策事業	藍住2期(藍住町)	農業用水のハイライン化	希少植物(コイスカラシ)	⑤代償	・個体を移植する。	⑤代償	・計画どおり(施工箇所のコイスカラシを15株移植)。	・枯死を確認(H17年夏の大半はつ)。【分析】 ・移植先での水不足。今後の移植について注意。
10	H16	経営体育成基盤整備事業	平高上(那賀川町)	ほ場整備(畦畔)	希少植物(フジバカマ・ミスマツバ・スミマコヘ)	③修正 ④軽減/消失 ⑤代償	・在来種の繁茂する畦畔、水田の表土を、それぞれ保管し、工事後に戻す。 ・土壌ごと個体を仮移植し工事後に戻す。	①回避 ④軽減/消失	・排水路の路線を変更し、フジバカマの生息地を回避。 ・計画どおり(畦畔土壌を保管し、畦畔に再利用)。	・全ての重要種ほか事前調査で確認された多くの種を確認(H20春、秋) 水田含め、従前の土壌の再利用が有効。
				ほ場整備(水路)	水生動植物(マガトシウ)	③修正 ④軽減/消失	・水路側面に凹部を設け流速緩和、底張りしない、ポンプ場に止水域の創設など、生育空間を創設する。 ・工事濁水の流入を防止する。	③修正	・計画どおり(ポンプ場内に、遊水池を設け、トンボ等の水生動植物の生息空間を設置)。	未
				ほ場整備(水路)	両生類(トノサマガエル)	②最小化 ④軽減/消失	・両生類(トノサマガエル)の生態系に配慮する。	②最小化	・水路側壁に水路から水田への移動可能なスローフを設置。	未

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
11	H16	広域農道事業	徳島東部3期(徳島市他)	農道	希少植物(キンラン・イスハコ)	①回避 ⑤代償	・路線変更もしくは移植する。	⑤代償	・計画どおり(計画路線の変更は困難なため、キンランを移植)。 ・対策なし(付近に多数の個体の生育を確認したため、イスハコに対する対策は不要)。	・移植先周辺でキンランを確認出来なかった。 【分析】 ・鳥獣被害等により、育環境に変化があった。
				農道(側溝)	小動物(カエル・ヘビ)	②最小化	・転落した際に這い上がれる構造とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				農道	希少植物(タシロラン)	①回避 ⑤代償	・路線変更もしくは移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				農道(横断暗渠)	魚類(カヨシノホリ等)	②最小化	・円形コルゲートパイプ等、上下流で移動可能な構造を検討する。	②最小化	・計画どおり(上下流で移動可能なスロープを設置した)。(H28)	—
12	H16	農免農道事業	忌部6期(吉野川市)	農道	希少植物(セトウチホトキス・ミヤコアオイ)	①回避 ⑤代償	・路線変更もしくは移植する。	①回避	・計画どおり(路線計画を見直し回避した)。	—
				農道	希少植物(サハセリ)	①回避 ⑤代償	・路線変更もしくは移植する。	—	・対策なし(再調査の結果、希少種でないセリと確認)。	—
				農道(側溝)	地上徘徊性動物(ヒバカリ)	②最小化	・転落した際に這い上がれる構造とする。	②最小化	・計画どおり(地上徘徊性動物等が転落した際に這い上がれる構造とした)。(H28)	—
13	H16	国営附帯県営農地防災事業	六条(上板町・板野町)	農業用水のハイライン化	水生動植物等	④軽減/消失	・ハイライン化に伴い開水路への通水が不要となるが、放水管を設置し、地元関係者の協力のもと用水を流す。	④軽減/消失	・計画どおり(地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させる放水管を設置)。	—
				農業用水のハイライン化	希少植物(コイスカラン)	①回避 ⑤代償	・個体を移植する。	①回避	・隣接する道路下へパイプを配管する経路変更により、生育するほ場畦畔部の掘削を回避。	・畦畔部の個体は耕作に支障があると除去された。 【分析】 農家の理解を得られるよう啓発が必要。
14	H16	老朽ため池等整備事業	神明池(阿波市)	ため池堤体改修	水生生物(トウヨシノホリ、モスガニ・トンボの幼虫等)	②最小化 ④軽減/消失	・生息環境保全のため、多自然型護岸とする。	②最小化	・計画どおり(堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張(間詰めは現場発生土)とした)。	・植生が繁茂してきており、生育環境を保全できている。
				ため池堤体改修	植物(ナンテンハキ)	②最小化 ④軽減/消失	・個体を移植する。	—	・工事区域内に確認されなかったため移植していない(工事区域外に植生を確認)。	—
				ため池堤体改修	水生生物	⑤代償	・ため池の落水で干上がるため、水生生物を避難する。	⑤代償	・計画どおり(落水時にモスガニを採取し、ため池下流の水路へ放流)。	未
15	H16	老朽ため池等整備事業	檀池(吉野川市)	ため池堤体改修	水生生物(マガ、エビ、トンボ等)	②最小化 ④軽減/消失	・生息環境保全のため、堤体護岸を一部自然石張とする。	②最小化	・堤体上流側法面を自然型擬石ブロック張で施工(間詰めは現地発生土)。	・植生の回復が確認された。
				ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	②最小化 ④軽減/消失	・個体を避難し、工事後に元に戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(一時避難し、工事完了後、現況生育付近に移植)。	・H19.6に移植した個体の消滅を確認したため、再移植した(H21.11)
				ため池堤体改修	水生生物	⑤代償	・ため池の落水で干上がるため、水生生物を避難する。	⑤代償	・落水時にため池の一部に水たまりを残した。 ・計画どおり(落水時にマガを採取し、上流水路へ放流)。	未
16	H16	中山間地域総合整備事業	牟岐(牟岐町)	取水堰改修	魚類(ヤマトスエビ)	②最小化	・遡上できる構造を検討する。	②最小化	・計画どおり(石張りのスロープ魚道を設けた)。	・堰上流部で個体を確認(H20調査)
				区画整理	希少植物(ミスワラビ、スズメハコヘ、ウスゲチヨウジタテ)	②最小化 ④軽減/消失	・生育する表土を仮置きし、ほ場整備後にその表土を戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(表土を仮置きし、戻した)。	・ミスワラビ、スズメハコヘを確認したが、ウスゲチヨウジタテは確認されなかった(H20調査)。
				水路	カニ・カエル・ヘビ等	②最小化	・生息環境の保全を検討する。	②最小化	・石積み及びフトン籠等による護岸とし生息地を創造するとともに、脱出用スロープを設置した。	・ベンケイガニ、トサマガエル等確認(H20調査)。
				水路	徘徊生小動物(カエル・ヘビ・イモリ等)	②最小化	・転落した際に這い上がれる構造とする。	②最小化	・計画どおり(排水路壁に階段スロープを設置)。	・水路内で小動物の死骸等は見られない(H20調査)。
17	H16	中山間地域総合整備事業	池田南部(池田町)	道路(側溝)	徘徊性動物(アカカエル)	②最小化	・転落した際に這い上がれる構造とする。	②最小化	・計画どおり(道路側溝はアカカエル等が這い上がれる構造とした)。	—
18	H17	経営体育成基盤整備事業	今津南部(阿南市)	ほ場整備(水路)	希少植物(アゼオキリ)	①回避	・群落のある土水路をそのまま残し、従来の水環境を維持する。	①回避	・計画どおり(群落のある土水路を存置した)。	・専門家が個体数の増加を確認。(H30)

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				ほ場整備(水路)	希少植物(アゼオトキリ)	⑤代償	・移植する。	⑤代償	・計画どおり(確認された個体を類似環境へ仮移植。遊水池の付近に再移植を行う予定)。	・最初に移植した箇所は農家に撤去された。遊水池横に移植した個体は定着しなかった。 【分析】 ・農家の理解を得られるよう啓発が必要。
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミス'カモン)	⑤代償	・移植する。	⑤代償	・生育箇所の畦土を剥ぎ取り、他の土と区別し一時保管。工事後の水路沿いの畦に戻した。	・ミス'カモンを確認できていない。 【分析】 ・土壌構造を保たず、移植したと考えられる。
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミス'マツバ、ミス'メ'ハコバ)	⑤代償	・移植する。	⑤代償	・生育箇所の畦土を剥ぎ取り、他の土と区別し一時保管。工事後の畦に戻した。	・希少種を確認できていない。 【分析】 ・土壌構造を保たず、移植したと考えられる。
				ほ場整備(水路)	希少植物(フジバカマ、コホネ)	⑤代償	・移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	希少植物(ミス'オオハコ、サンショウモ、ホツモ)	⑤代償	・移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	水生生物(メダカ、ドジョウ等)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・排水路の側壁や底部に凸凹部間を設ける。	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・計画どおり(排水路の側壁に魚巣ブロックを設置)。	-
				ほ場整備(水路)	水生生物(メダカ、ドジョウ等)	③修正	・水田と排水路を結ぶ魚道を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	小動物(トナサマガエル、両生類、は虫類)	②最小化 ④軽減/消失	・転落した際に這い上がれる構造とする。	②最小化	・計画どおり(水路側壁に水路から水田への移動可能な現場発生小石の突起として利用したスロープを設置)。	-
19	H17	国営附帯県営農地防災事業	大津東部東2期(鳴門市)	用水のパイプライン化	希少植物(ハマホウ)	①回避 ⑤代償	・路線計画の変更による回避又は移植等する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
20	H17	老朽ため池等整備事業	寺谷池(吉野川市)	ため池堤体改修	水生生物(メダカ、クモロ、イシガメ等)	②最小化 ④軽減/消失	・堤体護岸の一部を自然石張護岸とする。	②最小化	・計画どおり(堤体上流側法面に自然型擬石ブロックを設置)。	・5種の魚類、5種の貝類・甲殻類を確認。
				ため池堤体改修	水生生物	②最小化 ④軽減/消失	・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息場所を確保する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事期間中、浅瀬の水たまりを創設)。	-
21	H17	農免農道事業	板野中部2期(板野町)	道路	希少植物(コイスカラ)	④軽減/消失 ⑤代償	・生育環境に配慮を検討する。	⑤代償	・工事により、喪失する田、畦の表土を置き置きしておき、工事後付近の同様の場所にもどした。	未
				道路	魚類(メダカ、ドジョウ等)	③修正 ④軽減/消失	・生息環境の創設及び、工事期間中の濁水に留意する。	④軽減/消失	・作業機械の点検整備により、重機からの油類の流出・飛散の防止に努めた。	-
22	H17	中山間地域総合整備事業	脇中央(美馬市)		希少植物(ソクシラン、ウゲイスクラ、クチナシグサ)	②最小化 ④軽減/消失	・配慮を検討する。	①回避	・事業計画の見直しにより配慮箇所をでは工事を行わず、影響を回避した。	-
				道路(側溝)	徘徊性動物(カエル、ヘビ)	②最小化	・落下した際に、這い上がれる構造とする。	①回避	・道路側溝を設けないこととした。	-
23	H17	中山間地域総合整備事業	三好(三好市)	堰	魚類	②最小化	・取水堰の計画にあたっては、魚類が遡上できる構造とする。	①回避	・取水堰の計画を中止した。	-
				排水路	希少種(ヤマイバラ)	①回避 ⑤代償	・個体が確認された排水路の路線変更する。	①回避	・計画どおり(排水路の路線を一部変更)。	・排水路脇で、良好に生育している。
				排水路	希少植物(ユキモチソウ)	①回避	・生息場所に影響がないよう、増川排水路改修工事を行う。	①回避	・計画どおり(生育区域を囲い、立ち入り禁止とした)。	-
				ため池堤体改修	魚類(トウヨシボリ)	①回避 ③修正 ④軽減/消失	・個体の保全を検討する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
24	H18	経営体育成基盤整備事業	古養水・東北(阿波市)	農業用水のパイプライン化	希少水生動物(メダカ、ヒマルタニシ、コイムシ)	②最小化 ③修正	・調整水槽近傍にピオープを創出しする。	②最小化	・新たなピオープの創設は困難なため、地区内にあるため池の水が枯れないように、水の放水管を設置し、希少水生動物(メダカ、ヒマルタニシ、コイムシ)の生息環境を保全する。	未
				農業用水のパイプライン化	希少植物(カチシヤ)	②最小化 ④軽減/消失	・パイプラインに伴い開水路への通水が不要となるが、放水管を設置し、地元関係者の協力のもと用水を流す。	-	・対策なし(ため池からの排水が常時流入することから、生育環境の大きな改変はなかった)。	-



番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				農業用水のハイライン化	希少植物(センダイスケ、コマヅル)	④軽減/消失	・一時避難及び生育土壌を工事後に戻す。	①回避	・配管ルートの変更により、生育箇所を掘削を回避。	—
25	H18	経営体育成基盤整備事業	御所(阿波市)	用水のハイライン化	希少植物(カチシヤ)	②最小化	・ハイライン化に伴い開水路への通水が不要となるが、放水管を設置し、地元関係者の協力のもと用水を流す。	④軽減/消失	・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させている。	未
				用水のハイライン化(水槽)	水生動物(キンブナ、カラムツ、ドンコ、カヨシ)	②最小化 ③修正	・調整水槽近傍にヒートブを創出する。	①回避	配慮箇所周辺の工事未実施のため回避された。	—
				用水のハイライン化	希少植物(ナンテンハギ、ヒメソバハギ、コキンキン)	④軽減/消失	・個体を仮移植及び生育土壌を工事後に戻す。	①回避	・生育箇所は農地の畦畔部であり、道路区域内でのハイライン工事の方法等を検討した結果、生育区域への影響が無いように工事を施工した。	—
26	H18	国営附帯農地防災事業	大山(上板町・板野町)	用水のハイライン化	希少植物(ヒメソバハギ)	②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償	・個体を仮移植し工事後戻す。	①回避	・仮設道路計画路線を変更することで希少植物の生息地を回避。	—
				用水のハイライン化	水生動物	④軽減/消失	・ハイライン化に伴い、生育する水路への用水は不要となるが、既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	④軽減/消失	・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させている。	—
27	H18	老朽ため池等整備事業	奥の池(美馬市)	ため池堤体改修	希少植物(ミノナシ)	④軽減/消失	・工事前に種を採取し、工後に付近に播く。	①回避	・仮設道路計画路線を変更することで、希少植物の生育地を回避。	—
				ため池堤体改修	希少生物(モアライガイ)	⑤代償	・個体を保護し、工後に上のため池に戻す。	—	・池の水を抜く際に個体が発見できず、採取できなかった。	—
				ため池堤体改修	希少植物(ソクシラン)	⑤代償	・個体を移植する。	①回避	・生育箇所を工事範囲外とし、回避した。	—
				ため池堤体改修	希少植物(イトモ)	②最小化	・工事による個体への影響を少なくするため、冬期に工事を行う。	⑤代償	・イトモ生育箇所の土を仮置し工事完了後に戻す。(R2)	・ため池水位上昇により確認できず(R2)
28	H18	農免農道事業	勝浦南上部3期(勝浦町)	農道(側溝、横断暗渠)	小動物・は虫類等	④軽減/消失	・転落した際に這い上がれる構造とする。	④軽減/消失	・盛り土法面下部の水路に、小動物が這い上がれる構造を施工した。	・小動物が這い上がることを確認
29	H18	河川応急対策事業	有天第2(徳島市)	樋門改修	水生動植物	④軽減/消失	・堤体の改変を極力控え、工中は低公害型の機種とし、重機からの油類の流出、飛散を最小限にとどめる。	④軽減/消失	・計画どおり(作業機械を低公害型の機種に、油類流出、飛散の防止に努めた。さらに、シルトフェンスにより濁水の流出を極力抑えた)。	—
30	H18	中山間地域総合整備事業	那賀川西部(阿南市)	道路(接する水田)	希少植物(ミスズハ)	④軽減/消失	・個体が生育する水田土壌を再利用する。	④軽減/消失	・計画どおり(種子を含む水田土壌の置き置き、再利用した)。	・個体確認(H30調査)。
31	H19	経営体育成基盤整備事業(排水対策型)	竹須賀(徳島市)	水路	希少水生動物(モロコ、ヤリタナゴ、モスガニ)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・水路構造の検討及び在来水生植物の生育区間を確保する。	②最小化 ④軽減/消失	・計画どおり(底板中央部はコンクリートを張らない土砂溜まり部分を創設)。	・魚類6種(ヤリタナゴ、コウライモロコ等)を確認(H24調査)。
32	H19	老朽ため池等整備事業	藤谷池(阿南市)	ため池堤体改修	希少植物(スズサイコ)	④軽減/消失	・一時避難し、工事後に戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(一時避難し、工事後戻した)。	・個体確認(H26調査)。
				ため池堤体改修	水生生物(トブガイ)	②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償	・工事に伴う落水に際して、溜水内に移動させる。	④軽減/消失	・計画どおり(工事期間中、浅瀬の水たまりを創設)。	未
33	H19	老朽ため池等整備事業	一の坪(吉野川市)	ため池堤体改修	希少植物(ネズモ)	②最小化	・冬期に工事を行う。また、湿潤の環境を保全する。	②最小化	・計画どおり(冬期に工事を行うとともに、生育環境を改変しないため、施工ヤード以外は立ち入らない)。	未
				ため池堤体改修	希少植物(コマヅル)	④軽減/消失	・個体を一時避難し、工事後に戻す。 ・種子を採取し、工事後、現地に播種する。	④軽減/消失	・計画どおり(専門家の指導の下、種子を採取し栽培すると共に、工事の影響のない類似環境に一時移植し、生育を確認)。	・4箇所が開花を確認したものの(H22)、その後生息を確認できていない。 ・プランターに避難している個体を移植予
34	H19	湛水防除事業	上八万(徳島市)	排水機場	水生動植物	④軽減/消失	・工事中の濁水の発生を極力抑える。	④軽減/消失	・計画どおり(工事中の排水について沈砂水槽を設置)。	—
35	H19	経営体育成基盤整備事業	段関(鳴門市)		希少植物(コキンキン・オオアブメ等)	④軽減/消失	・生育土壌を工事後に戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(生育土壌を工事後の盛土や環境型ブロックの覆土に使用)。	未

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				水路	希少魚類(カワハヅメロ等)	②最小化	・生息空間を確保するため、水路側壁部を魚巣ブロックやカゴ枠等とする。	②最小化 他	・計画どおり(魚巣ブロック等設置するとともに、専門家の助言のもと、水路片岸を傾斜したブロック護岸とした)。 ・耕作者の理解を得て、レンコン田と排水路の往来が可能な魚道を設置。 ・水産研究所や一般企業、学校教育とも連携し、個体を避難させ増殖中。 ・増殖したカワハヅメロを地区上流のため池(H26)と水路(H29)に放流。また、自然環境に近いビオトープ池で育った親魚により耐性に強い種苗生産を行い放流を行う予定。	・放流したため池や水路での個体は未確認
				水路	希少種(オニバス)	④軽減/消失	・種子を採取し、水路工事完了後、環境配慮型の水路(緑田型水路)に、播種する。	④軽減/消失	・計画どおり(種子を採取し、緑田型水路に播種)。	・当初確認された箇所とは違うところに、継続して出現し、開花結果まで至っている。(R2)
36	H19	中山間地域総合整備事業	三野西部(三好市)		希少植物(ミヤコアイ・アケボノシュラン)	⑤代償	・個体を代替地に移植する。	⑤代償	・計画どおり(工事に影響のある個体を代替地に移植)。	・アケボノシュランは今年度も良好に生育。コバノチョウセンエノキは2mの高さに成長。(R2)
37	H20	河川応急対策事業	大井堰(海陽町)	堰改修(魚道)	回遊性魚類(カマキリ)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・魚道の改修において、生物的連続性の確保できる構造とする。	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・計画どおり(左右岸部は植え石魚道として、筏落とし部は魚道として整備)。	・アコ瀬上を確認(H25春、H26春)。 ・E.ヒ遊上を確認(H26.9)。
38	H20	河川応急対策事業	長田堰(徳島市)	堰改修	希少植物※湿性植物(クノアソウ・ウマシゲ)	②最小化	・水路内の湿地環境を保つ。 ・河道内のクノアソウ生育場所を確認し、工事の影響がないようにする。	②最小化	・計画どおり(水路通水を確保することにより湿地環境を保全し、工事影響範囲にクノアソウの生育がないことを確認)。	-
				堰改修	水生動物	④軽減/消失	・工事中の土砂や濁水、重機からの油の流出を抑える。	④軽減/消失	・計画どおり(シルトフェンスの設置し、汚濁水の流出を防止)。	-
39	H20	国営附帯県営農地防災事業	唐園(上板町・板野町)	用水のバイライン化	希少植物(サデクサ)	④軽減/消失	・直接的な影響は無いが、生育環境は保全する。	④軽減/消失	・計画どおり(現地発生土で埋戻)。	未
				用水のバイライン化	希少植物(クロモ)	②最小化	・生育地付近の工事は、出来る限り冬期に実施。 ・生育している水路にかんがい期に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	②最小化	・計画どおり(登記の工事を実施し、地元関係者の協力により、かんがい期は現況開水路に用水を流下)。	未
40	H20	基幹農道事業	池田3期(三好市)	道路	希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)	④軽減/消失	・農道計画路線付近に生育している個体の上に土砂が流れ落ちないように対策をする。	①回避	・事業計画の見直しにより配慮箇所をでは工事を行わず、影響を回避した。	-
				道路	希少植物(エビネ・ミヤコアイ)	①回避	・農道計画路線付近に生育している個体に影響が無いように施工をする。	①回避	・計画どおり(工事作業員に踏みつけや不必要な伐採はしないよう指示した)。	-
				道路(溪流横断部)	魚類(ナカレホケドジョウ等)	③修正	・溪流横断部については、ナカレホケドジョウ等が遡上できる構造とする。	①回避	・事業計画の見直しにより配慮箇所をでは工事を行わず、影響を回避した。	-
41	H21	経営体育成基盤整備事業	大幸(鳴門市)	道路	希少植物(サデクサ・コキシキ)	④軽減/消失	・生育土壌を工事後に戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(生育土壌を盛土や、環境型ブロックの覆土に使用)。	・段関と大幸の計4箇所の縁田部分にサデクサの種子を蒔き、2箇所で見現、開花結果。(R元)
					希少魚類(ドジョウ・カワハヅメロ等)	②最小化	・生息空間を確保するため、水路側壁部を魚巣ブロックやカゴ枠等とする。	②最小化	・計画どおり(魚巣ブロック等設置するとともに、専門家の助言のもと、水路片岸を傾斜したブロック護岸とした)。 【分析】 ・遺伝的多様性の劣化により自然界での生存が困難 ・外来種(バス・カヤシナガエツルゲイトウ等)による捕食・競合に負けている ・水質環境(DO)の悪化	
42	H21	農道整備事業	大麻西2期(鳴門市)	農道(横断水路)	水生動物	②最小化	地区内水路網の連続性を確保する。	②最小化	計画どおり(横断暗渠等により水路の連続性を確保)。	-
				農道	希少植物(ヒメタデ・クノアソウ)	④軽減/消失 ⑤代償	ヒメタデは生息地の土壌、アセシゲは個体を、クノアソウは個体と生息地の土壌を工事に影響のないところへ移動しておき工事後戻す、もしくは代替の生育場所へ移植する。	④軽減	・計画どおり(表土を仮置きし工事後戻した)。	・配慮場所を対象植物を確認できなかったため、引き続きモニタリングを行う(R4)
43	H22	経営体育成基盤整備事業	坂野2期(小松島市)	ほ場整備	希少植物(ヒメナキ・クロモ)希少水生動物(ヤリタナゴ・ヌマツ等)	②最小化	・生育環境保全のため、水路内に土砂が堆積する構造とする。 ・水路底のコンクリート張りとし、水路側面の多孔質化、ワンド上の溜まりの設置等の水路構造とする。	②最小化	・計画どおり(水路断面の側壁上部を無ライニング(土羽)とすることで、土砂堆積が可能な環境を創出し、希少植物や水生動物の成育環境を保全した)。	未

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				ほ場整備	希少植物(ミスワラビ・クモモ等)	④軽減/消失	・水田土壌を再利用するとともに工事を冬季に実施し影響を軽減する。	④軽減/消失	・計画どおり(水田土壌を再利用するとともに、工事を冬季に実施することにより影響を軽減した)。	未
				ほ場整備	希少植物(ミス'カモシ'・アセ'スゲ'等)	⑤代償	・個体を移植する。	④軽減/消失 ⑤代償	・計画どおり(ミス'カモシ'を代替の生育場所へ移植するとともに、種子を採取し、工事の完了した畦畔に播種)。 ・計画どおり(アセ'スゲ'を一時避難し、工事完了後に生育適地へ移植)。 ・地元農家に対し希少植物の生息地及び今後の維持管理について説明した。	・ミス'カモシ'は3箇所ですべて生育。(R2) ・アセ'スゲ'は移植を行った全箇所ですべて順調に増殖中。(R2)
44	H22	老朽ため池等整備事業	敷地池(吉野川市)	ため池堤体改修	水生動物	②最小化	・堤体内側の一部を水際植物が生育し魚介類が生息できるよう多孔質の張りブロックとする。	②最小化	・計画どおり(堤体上流側法面にブロックマットを設置)。	・植物繁茂を確認。
				ため池堤体改修	希少植物(ミノコジュ・スズメノヒエ等)	④軽減/消失 ⑤代償	・個体を工事期間中避難させ、工事後元の場所へ戻す。もしくは類似環境へ移植する。	④軽減/消失 ①回避	・計画どおり(工事期間中、影響を受けない場所に回避させており、工事完了後に元の生育場所に戻す予定)。 ・生育区域への影響が無いうように工事を施工した。	・回避箇所において、良好に生育していることを確認。
45	H23	老朽ため池等整備事業	新池(三好市)	ため池堤体改修	水生動物	②最小化	・堤体内側を多孔質の張りブロックとする。	②最小化	・計画どおり(堤体内側にブロックマットを設置)。	・過年度に実施した箇所については、植物が繁茂してきている。
				ため池堤体改修	水生動物	④軽減/消失	・落水の際は徐々に排水し、溜水域を確保する。	④軽減/消失	・同一水系のため池に避難放流した。	－
46	H23	経営体育成基盤整備事業	長生西部大原工区(阿南市)	ほ場整備(排水路)	水生動物	①回避	・下流水系との連続性を確保するため、大津田川と三日月湖を結ぶ水路を存置する。	①回避	・計画どおり(大津田川と三日月湖を結ぶ水路を現況のままとした)。	－
				ほ場整備(排水路)	水生動物	②最小化	・生息空間復元のため、幹線排水路の構造を、多孔質(石張、魚巣箱)とする。	②最小化	・計画どおり(排水路底版部を現地発生石を利用した多孔質(石張)とし、側壁部には魚巣ブロックを設置)。	－
				ほ場整備(排水路)	水生植物(オグラコウホネ、アイノヒルムシロ)	②最小化	・生育環境復元のため、幹線排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とする。	②最小化	・計画どおり(排水路底版部を現地発生石を利用した多孔質(石張)とし、個体を水路完成後に移植)。	・R4春夏秋冬モニタリング実施(R4) ・オグラコウホネの良好な生育を確認した(R4) ・アイノヒルムシロはここ数年確認できていない(R4)
				ほ場整備(排水路)	水生動物	③修正	・大津田川と排水路の連続性を保つため、接続部に段差を付けない。	③修正	・計画どおり(大津田川と排水路の接続部にスロープを設置)。	－
				ほ場整備(排水路)	水生動物	③修正	・簡易型水田魚道を取り付ける。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(沈砂地の設置による濁水流出防止及び、工事中の作業機械の点検整備により油類の流出飛散防止に努めた)。	－
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミス'カモシ'・アセ'スゲ')	⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、整備後の田畦に移植する。	④軽減/消失	・生育土壌(表土)を整備後の田畦に移植した。	・R4春夏秋冬モニタリング実施(R4) ・ミス'カモシ'の確認地点数は減少していた(R4) ・アセ'スゲ'は確認できていない(R4)
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ノニガサ)	⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、大原工区の類似環境へ移植する。	④軽減/消失	・生育土壌(表土)を整備後の類似環境へ戻した。	・R4春夏秋冬モニタリング実施(R4) ・ノニガサの確認地点数は増加していた(R4)
46	H24	経営体育成基盤整備事業	長生西部大谷工区(阿南市)	ほ場整備(畦畔)	在来植生	①回避	・現況の生育環境を残し、営農の中で生育地周辺の維持管理(草刈り)を継続していく。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(排水路)	水生動物	②最小化	・生息空間復元のため、幹線排水路の構造を、多孔質(石張、魚巣箱)とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(排水路)	水生植物(オグラコウホネ)	②最小化	・生育環境復元のため、排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とする。	⑤代償	・近隣地区外水路へ移植した。	・R4春夏秋冬モニタリング実施(R4) ・オグラコウホネの確認地点数は減少していた(R4)

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				ほ場整備(排水路)	水生動物	③修正	・大津田川と排水路の連続性を保つため、接続部に段差を付けない。	③修正	・計画どおり(大津田川と排水路の接続部にスロープを設置)。	—
				ほ場整備(排水路)	水生動物	③修正	・簡易型水田魚道を取り付ける。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(沈砂地の設置による濁水流出防止及び、工事中の作業機械の点検整備により油類の流出飛散防止に努めた)。	—
				ほ場整備(水田表土)	希少植物(ミスワビ、ミスマツバ)	④軽減/消失	・生育環境の復元のため、水田表土の再利用を行う。	④軽減/消失	・計画どおり(希少植物の種子を含む表土を剥ぎ取って保管し、整備後の水田の表土として再利用)。	・R4春夏秋冬モニタリング実施(R4) ・ミスワビの地点数はほぼ同等で、ミスマツバの確認地点数は増加していた(R4)
				ほ場整備	希少植物(アオヒメタテ、ミスアカモシ、アセスケ)	⑤代償	・生育地の土壌をブロック移植するとともに、種子を採取し移植先周辺に播種する。	④軽減/消失	・生育土壌(表土)を整備後の類似環境へ戻した。	・R4春夏秋冬モニタリング実施(R4) ・ミスアカモシの確認地点数は減少した(R4) ・アオヒメタテ、アセスケは確認できていない(R4)
				ほ場整備	希少植物(ミスアカモシ、ウマスケ)	⑤代償	・個体を類似地へ移植する。	⑤代償	・計画どおり(生息位置の確認後、移植する個体を採取し、一時的に仮移植。移植先の代償池を整備した後、本移植を行った)。	・R4春夏秋冬モニタリング実施(R4) ・代償地でのミスアカモシは増加し、水路際に播種したものは、発芽し生育していた(R4) ・代償地でのウマスケは増加していた(R4)
47	H24	老朽ため池等整備事業	坊僧池(美馬市)	ため池堤体改修	魚介類	②最小化	・生息場所としての水際植物が生育できる環境配慮型護岸(多孔質の張りブロック等)を堤体内側法面の一部に使用する。	②最小化	・計画どおり(堤体内側法面にブロックマットを設置した)。(R3)	・ブロックマットの隙間から植物の繁殖を確認。(R3)
				ため池堤体改修	在来植生	②最小化	・外来種の侵入抑制のため、堤体外側の法面保護として、シバ等の在来種による緑化を行う。	②最小化	・計画どおり(外来種の侵入抑制のため、堤体外側の法面保護として、シバ等の在来種による緑化を行った)。	—
				ため池堤体改修	水生動物	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・計画どおり(地元水利組合と連携し、水を徐々に排水することに努めた)。	—
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散防止に努めた)。	—
				ため池堤体改修	在来植物	④軽減/消失	・工事後の植生の復元が速やかに行われるよう、工事による改変・影響を極力少なくする。	④軽減/消失	・例年行う落水期間に合わせて工事を実施した(近傍に鶏舎があることから、取水期以外は池の水を落水)。	—
48	H25	老朽ため池等整備事業	相名池(阿南市)	ため池堤体改修		②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	②最小化	・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る工事を実施。	未
				ため池堤体改修	在来水生動物	④軽減/消失	・個体が避難できるようにするため、ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保する。	④軽減/消失	・徐々に水を排出した。	—
				ため池堤体改修	希少植物(ミスマツバ)	④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土(ミスマツバの埋土種子を含む)に影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。	④軽減/消失	・表土の仮置を行った。堤体工事後に元の場所に戻す。	未
				ため池堤体改修	全般×外来種魚類(オクチバス)	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度とする。 ・干上げの際、オクチバス(特定外来種)を駆逐する。	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度の範囲とした。 ・オクチバスは池内に生息していなかった。	—
49	H26	国営附帯県営農地防災事業	大幸西(鳴門市)	用水のバイパス化	水生動物	②最小化	・水量が減少すると考えられる既存水路に、計画の排泥工より適量の水を流し、水生動物への生息環境を保全する。	②最小化	・計画どおり(排泥工を設置し、既設水路へ適量の水を流すようにした)。(R2)	—
				用水のバイパス化	希少植物(サテウサ、ミスアオイ、ユギシギ)	④軽減/消失	・工事の影響を受けるサテウサ、ミスアオイは生息地の土壌を、ユギシギは個体を、工事の影響のないところへ移動し、工事後に戻す、または近隣の類似環境の場所へ移植する。	④軽減/消失	・給水栓の設置にあたり掘削した表土は、工事後に元の場所に戻した。(R2)	未



番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
50	H26	老朽ため池等整備事業	源太池(阿波市)	ため池堤体改修	在来植生	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	②最小化	・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る工事を実施。	・植生が繁茂してきており、生育環境を保全できている。
				ため池堤体改修	水生動物	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・地元関係者と調整し、ため池の水を徐々に排出している。	—
				ため池堤体改修	希少植物(コモヅル)	④軽減/消失	・個体及び埋土種子を含む表土を、影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。また、事前に種子を採取し、工事後に播く。	④軽減/消失	・保護育成していた個体を現地に移植した。	・個体の生育を確認(R3までモニタリングを継続する)。
				ため池堤体改修	在来植生	④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土に影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。	④軽減/消失	・水田の表土は、工事に影響のないところへ仮置きし、工事後に戻す予定。	—
				ため池堤体改修	全般×外来種魚類(オクチバス)	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度とする。 ・干上げの際、オクチバス(特定外来種)を駆逐する。	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは、必要最小限度としている。 ・工事に先立つ干上げの際に、駆逐すべき外来種は発見されず、在来種は同水系の近傍ため池に移動し放流した。	—
51	H27	国営附帯県営農地防災事業	那賀川・小松島(小松島市)	水路	希少水生植物(クロモ、クロカズスゲ)	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生植物・水生動物の生息空間を復元する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路立体交差函渠部の窪地箇所を維持し、溜まり(水生動物の生息空間)を創設した。	・溜まりに水生動物を確認 ・非かんがい期においても枯渇しないことを確認
				水路	魚類(メカ、ドジョウ)	③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。	④軽減/消失	・計画どおり(現況との接合部を緩傾斜構造とした。水田魚道を設置した。)	・水田内に魚類を確認
				水路	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意した。	—
				水路	小動物	④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路内に入りするための既存の階段を維持し、這い上がれる構造を創出した。	—
				水路	希少植物(クロモ、クロカズスゲ)	④軽減/消失	・個体を影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(クロモ)に影響を受けない場所へ避難させた。希少植物(クロカズスゲ)は、用水路外の田の畦に生育が確認されていたため、工事に当たって、保護区域を設定し、工事に際して、資材を置いたり、踏み荒らししたりすることが無いよう努めた。	クロモの殖芽を播種した箇所において、生育が確認できなかった。 【原因】播種後の豪雨等により、個体定着前に流亡したと思われる。
				水路	希少植物(クロモ、クロカズスゲ)	⑤代償	・改修水路内において、水生・湿生植物の生育空間を創出する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路立体交差函渠部の窪地箇所を維持し、溜まり(水生動物の生息空間)を創設した。	・溜まりに水生動物を確認 ・非かんがい期においても枯渇しないことを確認
52	H27	国営附帯県営農地防災事業	那賀川・今津(阿南市)	水路	水生動物	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生動物の生息空間を復元する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路立体交差函渠部の窪地箇所を維持し、溜まり(水生動物の生息空間)を創設した。	・溜まりに水生動物を確認 ・非かんがい期においても枯渇しないことを確認
				水路	魚類(メカ、ドジョウ)	③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。	④軽減/消失	・計画どおり(現況との接合部を緩傾斜構造とした。水田魚道を設置した。)	・水田内に魚類を確認
				水路	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(沈砂池設置による濁水流出防止及び、工事中の作業機械の点検整備により油類の流出飛散防止に努めた)	—
				水路	小動物	④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路内に入りするための既存の階段を維持し、這い上がれる構造を創出した。	—
				水路	希少植物(コイスカラン)	④軽減/消失	・個体を影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	①回避	・水路内工事のため、影響を回避した。(また、工事作業員による踏みつけ防止や仮設道路計画も影響のない対岸に設置する等し影響回避に努めた。)	—
				水路	希少植物(コイスカラン)	⑤代償	・個体を近隣の類似環境の場所に移植する。	①回避	・水路内工事のため、影響を回避した。(また、工事作業員による踏みつけ防止や仮設道路計画も影響のない対岸に設置する等し影響回避に努めた。)	—
53	H27	国営附帯県営農地防災事業	那賀川・平島(阿南市)	水路	希少水生植物(クロモ)	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生植物・水生動物の生息空間を復元する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路立体交差函渠部の窪地箇所を維持し、溜まり(水生動物の生息空間)を創設した。	・溜まりに水生動物を確認 ・非かんがい期においても枯渇しないことを確認

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				水路	魚類(マガ、ドジョウ)	③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。	④軽減/消失	・計画どおり(現況との接合部を緩傾斜構造とした。水田魚道を設置した。)	・水田内に魚類を確認
				水路	希少水生植物(クロモ)	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(沈砂池設置による濁水流出防止及び、工事中の作業機械の点検整備により油類の流出飛散防止に努めた)	—
				水路	小動物	④軽減/消失	・転落した際に這い上がれる構造とする。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路内に入り易いための既存の階段を維持し、這い上がれる構造を創出した。	—
				水路	希少水生植物(クロモ)	⑤代償	・改修水路内において、水生・湿生植物の生育空間を創出する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路立体交差函渠部の窪地箇所を維持し、溜まり(水生生物の生息空間)を創設した。	・溜まりに水生動物を確認 ・非かんがい期においても枯渇しないことを確認
54	H27	国営附帯県営農地防災事業	那賀川・南岸(阿南市)	水路	希少水生植物(クロモ)	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生植物・水生動物の生息空間を復元する。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路立体交差函渠部の窪地箇所を維持し、溜まり(水生生物の生息空間)を創設した。	・溜まりに水生動物を確認 ・非かんがい期においても枯渇しないことを確認
				水路	魚類	③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、水路への簡易型水田魚道を設置する。	④軽減/消失	・計画どおり(現況との接合部を緩傾斜構造とした。水田魚道を設置した。)	水田内に魚類を確認
				水路	希少植物(コイスガラシ・クロモ)	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(沈砂池設置による濁水流出防止及び、工事中の作業機械の点検整備により油類の流出飛散防止に努めた)	—
				水路	小動物	④軽減/消失	・転落した際に這い上がれる構造とする。	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路内に入り易いための既存の階段を維持し、這い上がれる構造を創出した。	—
				水路	希少植物(ヒツツハハギ)	④軽減/消失 ⑤代償	・工事期間中、影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。 ・近隣の類似環境の場所に、移植する。	①回避	水路内工事のため、影響を回避した。(また、工事作業員による踏みつけ防止や仮設道路計画も影響のない対岸に設置する等し影響回避に努めた。)	—
				水路	希少水生植物(クロモ)	⑤代償	・改修水路内において、水生・湿生植物の生育空間を創出する。(クロモ)	④軽減/消失	・配慮計画が事業目的に相反するため、未実施。 ・代替として、水路立体交差函渠部の窪地箇所を維持し、溜まり(水生生物の生息空間)を創設した。	・溜まりに水生動物を確認 ・非かんがい期においても枯渇しないことを確認
55	H27	老朽ため池等整備事業(土地改良施設耐震対策事業)	三村用水(三好市)	水路	水生動物	②最小化	・蟬谷頭首工での取水量を調節し、生息区間の水量を確保する。	②最小化	・工事用水を別の水源より取水し、生息区間の水量を確保した。	・水生動物を確認
				水路	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意した)。	—
				水路	希少植物(イヌハギ)	④軽減/消失 ⑤代償	・工事期間中、希少植物(イヌハギ)に影響を受けない場所へ避難させる。 ・近隣の類似環境の場所に移植する。	①回避	・生育箇所を工事範囲外とし、回避した。	—
56	H28	経営体育成基盤整備事業	大代戎野(鳴門市)	水路	水生植物※魚類	②最小化	・水路側壁部にブロックネット・フトンかご等を敷設し覆土を行い、水生植物の植生回復により、魚介類の生息空間を創出する。	②最小化	・計画どおり(魚巣ブロック等設置するとともに、専門家の助言のもと、水路片岸を傾斜したブロック護岸とした)。	・環境DNA調査実施したが、カワハタモロを確認できず。(R2) 【分析】 ・遺伝的多様性の劣化により自然界での生存が困難 ・外来種(バス、カダヤシ、ガエツルゲイトウ等)による捕食・競合に負けている ・水質環境(DO)の悪化
				水路	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散の防止に努めた)。	—
				水路	希少植物(コキンキン・コイスガラシ)	④軽減/消失	・個体を生育地の土壌と共に工事の影響のないところに移動し、工事後戻す。	—	・施工区間において、個体を確認できなかった。	—
				水路	希少水生植物(オニバス)	⑤代償	・オニバスの種子を採取し、水路工事完了後、環境配慮型水路に播種する。	⑤代償	・オニバスの種子を採取し、水路工事完了後、環境配慮型水路(縁田型水路)に、播種した。	・生育していることを確認した。
57	H28	老朽ため池等整備事業(農業用河川工作物応急対策事業)	神野(海陽町)	堰改修	魚類	②最小化	・右岸側魚道の破損による漏水を修復し、新たに詰め石により魚道部の水深・流速に変化を設け、遊泳力の弱い魚種でも機能する形式とする。	②最小化	・計画どおり(魚道の修復にあたって、水深・流速に変化をもたらす詰め石を魚道表面に配置した)。	・堰の上流にて魚影を確認(R3.6)
				堰改修	魚類等	③修正	・生物的連続性を確保するため、堰下流部の護床部を現況河床にすり付ける。	③修正	・計画どおり(堰下流部の護床ブロックを現況河床にすりつけ設置した)。	・堰の上流にて魚影を確認(R3.6)

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				堰改修(重機)	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散の防止に努めた)。	—
				堰改修(工事用道路)	在来植生	④軽減/消失	・仮設道や作業ヤードを最小限とし、在来植生への影響を軽減する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事ヤードを必要最小限とした)。	—
58	H29	中山間地域総合整備事業	那賀東部(那賀町)	ため池堤体改修	魚類(ナガレホトケシヨウ)	①回避	・ナガレホトケシヨウの確認されたため池上流部は改変をしない旨を設計図書に明示する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
					全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流失、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
						④軽減/消失	・河床間隙を塞がないように河川内への重機の侵入、進入路の設置を最小限とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
					希少植物(ウメバチソウ、トサンモツケ、トツバハキ、ナカガワノギク、カリガネソウ、シラン)	④軽減/消失	・生育地を改変しない旨を設計図書に明示し、看板やロープなどを設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
					希少植物(イモト)	④軽減/消失	・種子、萌芽及び個体を採取し、工事後に本種が生育出来るような環境を整え、植え戻し及び播種を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
59	H30	経営体育成基盤整備事業	芳崎(阿南市)	ほ場整備	魚類	③修正	・新設および付替え水路と現況水路との接合部において、魚類の移動を妨げないよう緩傾斜とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚類	③修正	・函渠部において段差を設け、夏場の水温上昇の抑制や、非灌漑期の水域を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(重機)	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(低騒音、低公害型重機を使用し、工事中の作業機械の点検整備により油類の流出飛散防止に努めた)。	—
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミス'カモジ、アゼスケ)	④軽減/消失	・種子を採取し、個体と生育地の土壌と共に工事の影響のないところに移動しておき、工事後植え戻し及び播種を行う。	④軽減/消失	・ミス'カモジ、アゼスケの種子を採取後、播種し、生育状況のモニタリングを実施中。(R2~) ・今年度工事予定である箇所ミス'カモジの種子および個体を採取し保護育成を行った。(R3)	未
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(フジバカマ)	⑤代償	・個体と種子を採取し、生育環境の類似した場所に移植及び播種を行う。	—	・今回の踏査では確認されなかった。現場は、草刈りが実施されていた。(R2) ・今年度も確認できず消失した。(愛好家による乱獲か?) (R3)	—
60	H29	経営体育成基盤整備事業	沼田(美馬市)	ほ場整備(水路)	魚類	②最小化	・床板を設置する箇所等に魚類の隠れ場所となる水のたまり区間を水路に設ける。	②最小化	・計画どおり(水路に水のたまり区間を設けた)	未
				ほ場整備(重機)	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散の防止に努めた)。	—
				ほ場整備(全般)	希少植物(オオカスクリ) ×外来生物(アレチウリ)	④軽減/消失	・隣接他部局の工事範囲で確認されたため他部局との情報共有を行う(オオカスクリは保全。アレチウリは駆除、場外搬出ししない)。	④軽減/消失	・生息地を工事エリアに含む堤防工事担当へ情報提供した。	—
				ほ場整備(全般)	×外来生物(オカワチヤ)	④軽減/消失	・生育箇所の土壌を場外搬出ししない。	④軽減/消失	・生育地が隣接他部局の工事範囲との境界に位置しており、精査した結果、他部局工事範囲に生育していたため堤防工事担当へ情報提供した。	—
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ヒメス'ワビ、コギンギシ、コイスガラシ、ミス'ツバ)	④軽減/消失	・個体を生育地の土壌と共に工事の影響のないところに移動しておき、工事後戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(現地の土壌を畦畔土として流用した)	未

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ノカナ)	⑤代償	・種子を採取し、工事完了後、地区内のさまざまな環境に播種する。	⑤代償	・計画どおり(個体及び種子を採取し現地で播種及び移植を実施した)(R元)	・生育を確認したが、種から育てた個体は結実しなかった(R元) ・現地移植した個体は結実し種子が周囲に飛んだ(R元) ・播種・移植した個体は次年度から確認されなかった(R2) ・現地の表土(種子が入った土壌)を流用しているため流用した箇所から生育を確認(R4)
61	H29	国営附帯県営農地防災事業	藍住3期(藍住町)	用水のバイパス化・水路	魚類	③修正	・移動を妨げないよう、新設および付替え水路と現況水路との接合部を緩傾斜とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				用水のバイパス化・水路	魚類	③修正	・夏場の水温上昇の抑制や、非灌漑期の水域を確保するため、函渠部において段差を設ける。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				用水のバイパス化・水路	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				用水のバイパス化・水路	在来植生	⑤代償	・生育場所の畦畔などの土を可能な限り工事に流用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
62	H29	農道整備事業	伊沢中央2期(阿波市)	道路(周辺・法面)	在来植生	③修正	・工事によってダメージを受けた路線周辺の植生や、新設農道の法面を、在来種により緑化を行い自然植生の回復を図る。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				道路(重機等)	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				道路	希少植物(イヌハギ)	④軽減/消失	・個体を生育地の土壌とともに工事の影響外へ移動し、工事後に戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				道路	希少植物(イヌハギ)	⑤代償	・個体と種子を採取し、工事の影響のない類似の環境へ移植及び播種する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
63	H30	老朽ため池等整備事業	塚池(吉野川市)	ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	④軽減/消失	・種子を採取し工事後播種するとともに、個体を土壌とともに避難し、工事後植戻しする。	④軽減/消失	・種子・個体を採取し、播種・保護育成を行った。工事後工事後植戻す予定(H30) ・工事後、保護育成していたコカモヅルを3株、堤体部に移植した(R4.6月)	・移植した3株は、いずれも開花し、結実した。定着したと考える(R4.11月)
				ため池堤体改修	在来植生	④軽減/消失	・堤体に緑化部分を設ける。	④軽減/消失	・計画どおり(堤体に緑化部分を設けた)。	未
				ため池堤体改修	水生動物(ドジョウ・オオタニシ)	④軽減/消失	・ドジョウは、流入谷川へ移動させる。 ・オオタニシは、池流入部の湿水域に避難させる。	④軽減/消失	・ドジョウ:発見されず(工事実施前の落水時に流下したと考える)(R1) ・オオタニシ:池流入部の湿水域に避難させた(R1)	未
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(濁水の流下、重機からの油流出、飛散等が無いよう工事を実施)。	—
				ため池堤体改修	×外来種(スレン・コイ・アメリカザリガニ)	③修正	・スレンは、生育する土壌を工事箇所周辺で乾燥させ駆除する。 ・コイは、ため池外に移す。 ・アメリカザリガニは、減水時に駆除する。	③修正	・スレン:発見されず(R1) ・コイ:別箇所に移した(R1) ・アメリカザリガニ:発見されず(R1)	—
64	H30	老朽ため池等整備事業	花園池(三好市)	ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	④軽減/消失	・種子を採取し工事後播種するとともに、個体を土壌とともに避難し、工事後植戻しする。	④軽減/消失	・コカモヅルの個体及び表土を仮置きした。工事完成後、現地へ移植予定。	・プランターに移植した個体は生育確認できない(R3) ・R4春に堤体法面に自生していたがその後草刈りによって個体の確認ができない状況であるためR5春に再度現地確認を行う(R4)
				ため池堤体改修	在来植生	④軽減/消失	・堤体に緑化部分を設ける。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	貝類(オオタニシ)	④軽減/消失	・池流入部の湿水域に避難させる。	⑤代償	・工事期間中における湿水域確保が困難であるため近隣の池に避難させた(R4)	—
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(濁水の流下、重機からの油流出、飛散等が無いよう工事を実施)	—



番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則		環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
						環境配慮5原則	主な環境配慮の計画			
				ため池堤体改修	×外来種(オオクチバス、ブルーギル)	③修正	・ため池からの流出に注意し、駆除するとともに、工事後、特定外来生物放流禁止の啓発活動を行う。	③修正	・計画どおり(オオクチバス、ブルーギルの駆除実施)(R4)	-
65	H30	老朽ため池等整備事業	妙見池(阿南市)	ため池堤体改修	希少植物(ココモヅル)	④軽減/消失	・種子を採取し工事後播種するとともに、個体を土壌とともに避難し、工事後植戻する。	④軽減/消失	・ココモヅルの個体を採取した。今後、保護育成し、種子の採取及び播種により移植のための苗の生産を行う。(R2) ・新たな個体を採取、育成し、種子の採取、播種により移植のための育苗中。(R3)	未
				ため池堤体改修	希少植物(スズメコヒエ)	⑤代償	・種子を採取し工事後播種するとともに、生息地の表土を堤体盛り土に利用する(播種、盛り土ともに堤体の水際)。	⑤代償	・スズメコヒエの個体を採取した。今後、保護育成し、種子の採取及び播種により移植のための苗の生産を行う。(R2) ・新たな個体を採取、育成し、種子の採取、播種により移植のための育苗中。(R3)	未
				ため池堤体改修	魚類(ミナミガキ、シマレヨシノボリ)	②最小化	・堤体内側の法面保護にブロックマットなど水際植物の生息しやすい構造とし、魚類の生息空間を創出する。	④軽減/消失	・3ヶ年に分けて堤体工事を実施し、完了後(R5)ブロックマット敷設予定。(R3)	-
				ため池堤体改修	貝類(オオケシ、マシジミ)	④軽減/消失	・工事の水抜きの際、避難出来るようゆっくりと落水する。	④軽減/消失	・計画どおり(地元土改良区と連携し、水を徐々に排水することに努めた)。	-
				ため池堤体改修	水生生物	④軽減/消失	・避難場所として、ため池内部に溜水域を確保する。	④軽減/消失	・計画どおり(ため池流入部に溜水域を確保した)。	-
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散しないようにする。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水流出防止及び、工事の作業機械の点検整備により油類の流出飛散防止に努めた)。	-
				ため池堤体改修	×外来種(オオクチバス、ブルーギル)	④軽減/消失	・特定外来生物を放流されないよう啓発を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
66	H31	老朽ため池等整備事業	大師池(美馬市)	ため池堤体改修	希少植物(オオカズクリ)	④軽減/消失	・種子を採取し工事後適地に播種するとともに、個体を適地に移植する。	①回避	・生育箇所を工事範囲外とし、回避した(R4)	-
				ため池堤体改修	希少植物(ミヤコイバラ)	④軽減/消失	・施工業者に保護の啓発を行うとともに、個体に影響を極力与えないよう、仮設道路や重機仮置き場の位置を選定する。	④軽減/消失	・計画どおり(施工業者に対して保護の啓発を行った)(R4)	-
				ため池堤体改修	魚類等(コクラクハセ、オオケシ)	④軽減/消失	・施工時の減水期に個体を一時避難させ、施工後に同池に戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(工事実施前に個体を一時避難させた)(R4.11月)	未
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散防止に努めた)。	-
67	R2	経営体育成基盤整備事業	長生中央	ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミスアカモジグサ)	①回避	・ミスアカモジグサが生育している土水路を、一部現況のまま残し、生育環境を保全する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	希少植物(オウクラコウホネ、クロモ)	②最小化	・排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とし、水生植物の生育空間を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ヒメスワラビ、コイスガラシ、ミスマツバ、ウスケチヨウジタテ、カチシヤ、スズメハコベ)	④軽減/消失	・水田土壌の再利用を行い生育環境を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ノカナ)	④軽減/消失	・種子を採取し育苗して、工後に田畔に植戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミスアカモジグサ、アセスゲ、ウマステ、オグルマ)	⑤代償	・できる限り多くの個体を採取し栽培して、工後に、田畔に植戻す。また、代替湿地の田畔に植戻す。	⑤代償	・ミスアカモジグサの種子採取を行い保管した(R4.5月) ・次年度(R5)施工範囲に生育しているミスアカモジグサ、アセスゲ、オグルマの生育状況を確認(R4.5月)	未
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミスオオハコ)	⑤代償	・ミスオオハコが生育している土壌を取り置きしておき、工後に、類似環境の田に再利用する。	⑤代償	・ミスオオハコの個体を採取し保護育成を行った(R4.8月~12月) ・R4.11月に開花	未
				ほ場整備(水路)	魚類	①回避	・魚介類の供給源や生息空間として重要と思われる土水路・石積みの現況水路を一部残す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚類	③修正	・新設および付替え水路と現況水路との接合部において、魚類の移動を妨げないよう緩傾斜とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				ほ場整備(水路)	貝類	③修正	・函渠部において、段差をもうけ土砂の溜まりをつくり、貝類の生息場所となる構造とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚類	③修正	・大津田川と排水路の連続性を保つため、接続部に段差を付けない。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(重機)	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流失、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
68	R2	老朽ため池等整備事業	第一金清池(阿波市)	ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	②最小化	・堤体外側の法面保護として、シバ等の在来種による緑化を行い、外来種の侵入を抑制する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	④軽減/消失	・工事までに個体を避難させ、プランターにより保護育成した個体及び現地採取した種子を播種育苗したコカモヅルを、工事後の堤体に再移植する。	④軽減/消失	・今年度工事区域内のコカモヅル1個体を採取し育成した(R4.6月) ・また、結実期に現地に生育している個体から種子の採取を行った(R4.11月)	・現地採取したコカモヅル1個体の生育状況をモニタリング中(R4) ・9月に開花したが結実しなかった(R4)
				ため池堤体改修	魚類(モツゴ、シマヒヨドリ)	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、魚類の生息場所としての水際植物が生育できる環境配慮型護岸(多孔質の張りブロック等)を堤体の一部に使用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	魚類(モツゴ、シマヒヨドリ)	④軽減/消失	・工事の際池流入付近の浅瀬にピオトープ池的なものを造成し、在来水生動物の避難場所とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	魚類(モツゴ、シマヒヨドリ)	④軽減/消失	・施工時の減水に併せ個体を採捕し、同一水系で第1金清池と類似した環境のため池に分散避難させ、工事後戻す。	④軽減/消失	・計画どおり(モツゴ、シマヒヨドリ)を採捕し、同一水系で第1金清池と類似した環境のため池(第2金清池)に分散避難させた(R2) ・R2に、下流域に避難させた配慮対象種(モツゴ・シマヒヨドリ)の生息状況を確認するため現地調査を実施(R3・R4)	・R3年度の調査では、下流域で、シマヒヨドリが多数採捕されたが、モツゴは採捕できなかった(R3) ・R4年度の再調査において下流域でモツゴ、シマヒヨドリが多数採捕された(R4)
				ため池堤体改修	×外来種(オウチハス、ブルーギル)	④軽減/消失	・外来生物の放流禁止サインによる生態系配慮の啓発	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意するよう、業者に指導した)。	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意した。
69	R2	老朽ため池等整備事業	オソノ池(美馬市)	ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	②最小化	・堤体外側の法面保護として、シバ等の在来種による緑化を行い、外来種の侵入を抑制する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	希少植物(コカモヅル)	④軽減/消失	・工事までに個体を避難させ、プランターにより保護育成した個体及び現地採取した種子を播種育苗したコカモヅルを、工事後の堤体に再移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	希少植物(ミヤコイハ)	④軽減/消失	・可能なかぎり個体が工事の影響を受けないよう、工事の際、工事業者に希少植物の生育場所の周知、保護についての啓発を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				ため池堤体改修	希少植物(ミヤコイハ)	④軽減/消失	・工事の際、仮設道路の位置や重機の仮置き位置が個体の生育箇所に可能なかぎり影響を及ぼさないよう配慮する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				ため池堤体改修	魚類(モツゴ)	④軽減/消失	・施工時の減水期に個体を採取し、同池または近隣のため池に避難場所を検討し、一時避難させ、工後に同池に戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
70	R3	経営体育成基盤整備事業	和田島(小松島市)	ほ場整備(水田表土)	希少植物(ヒメスワラビ、アスマツメグサ、ミスマツバ、ウスゲチョウジタテ、ユイカラス、カワヂシャ、スズメノハコ)	④軽減/消失	・水田土壌の再利用を行い生育環境を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ノカナ)	④軽減/消失	・種子を採取し育苗して、工事後の畦畔に植え戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(クカワスゲ、アゼスゲ)	④軽減/消失	・種子を採取するとともに、個体を掘り取り栽培し、工事後の田畔に植え戻す。また、採取した種子を工事後の畦畔に播種する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ヒメナミキ)	④軽減/消失	・できる限り多くの個体を採取して栽培して、工事後の畦畔に播種する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚類	①回避	・魚介類の供給源や生息空間として重要と思われる土水路・石積みの現況水路を一部残す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				ほ場整備(水路)	魚類	③修正	・新設および付け替え水路と現況水路との接合部において、魚類の移動を妨げないよう緩傾斜とする。また、排水路と河川の連続性を保つため、接合部に段差を付けない。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				ほ場整備(水路)	魚類	③修正	・函渠部において、段差をもうけ土砂の溜まりをつくり、水生生物の生息空間となる構造にする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
71	R3	老朽ため池等整備事業	土井の池(東みよし町)	ため池堤体改修	在来植物	③修正	・堤体外側の法面保護として、自然植生により回復を図る。また、種子吹付を行う場合は在来種で国内産の種子を採用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	水生生物	②最小化	・堤体内側の法面保護にブロックマットなど水際植物の生育しやすい構造とし、水生生物の生息空間を創出する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	水生生物	④軽減/消失	・工事の際、水生生物の避難場所として、ため池内部に溜水域を確保する。	④軽減/消失	・計画どおり(ため池内部に溜水域を設け、水生生物(シマヘシノボリ)を避難させた)(R4)	未
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	④軽減/消失	・計画どおり(濁水の流下、重機からの油流出、飛散等が無いよう工事を実施中)。	—
				ため池堤体改修	×外来種(オオクチバス、ブルーギル)	④軽減/消失	・維持管理において、オオクチバスやブルーギル等の特定外来生物を放流されないよう啓発を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
72	R3	老朽ため池等整備事業	大谷溜(阿南市)	ため池堤体改修	希少植物(クロモ)	④軽減/消失	・クロモの萌芽を採取し、栽培する。工事完了後、生育していた場所に萌芽および個体を植え戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	水生生物	②最小化	・堤体内側の法面保護にブロックマットなど水際植物の生育しやすい構造とし、水生生物の生息空間を創出する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	水生生物	④軽減/消失	・工事の際、水生生物の避難場所として、ため池内部に溜水域を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				ため池堤体改修	×外来種(オオクチバス、ブルーギル)	④軽減/消失	・維持管理において、オオクチバスやブルーギル等の特定外来生物を放流されないよう啓発を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
73	R3	老朽ため池等整備事業	若松(海陽町)	堰改修(仮設計画)	希少植物(ユキモ子ソウ、ミナオシ、ミスツバ、ミスネオ、スズメハコベ、ニガナ)	④軽減/消失	・仮設道路盛土搬入による道路用地をできる限り少なくし、運搬車両による粉塵等による希少植物の生育環境への影響を軽減する。また、希少植物の生育場所にマーキングを行い、工事担当者への注意喚起を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				堰改修(重機)	希少植物(ユキモ子ソウ、ミナオシ、ミスツバ、ミスネオ、スズメハコベ、ニガナ)	④軽減/消失	・低公害型の作業機械の使用と重機からの油類の流出、飛散に注意し、希少植物への影響を軽減する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				堰改修(魚道)	魚類(オシマトジョウ、ホウスハゼ、アユ、ウグイ)	②最小化	・魚道の破損による漏水を修復し、新たに植石により、魚道部の水深・流速に変化を設け、遊泳力の弱い魚種でも、機能する形式とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				堰改修(護床)	魚類	③修正	・堰下流側の護床部を改修し、現況河床にすり付け、堰での河川の段差、分断を解消し、生物的連続性を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				堰改修(全般)	全般	④軽減/消失	・工事中の土砂流出や濁水流下を最小限につとめ、下流の水生動物への影響を軽減する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
74	R3	震災対策農業水利施設整備事業	一の堰(阿南市)	堰改修(仮設計画)	希少植物(フサケ)	①回避	・希少植物の生育場所を、仮設道路や資材置き場として利用しない。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				堰改修(仮設計画)	希少植物(フサケ)	④軽減/消失	・仮設道路盛土搬入による道路用地をできる限り少なくし、運搬車両による粉塵等による希少植物の生育環境への影響を軽減する。また、希少植物の生育場所にマーキングを行い、工事担当者への注意喚起を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				堰改修(重機)	在来植物	④軽減/消失	・低公害型の作業機械の使用と重機からの油類の流出、飛散に注意し、在来植物への影響を軽減する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				堰改修(魚道)	魚類	③修正	・アユ(遊泳魚)を対象とした形状の既存の魚道を、ニホンウナギやゴクラクハゼ(底生魚)も遡上できる直壁部を斜路にした形状に改良する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				堰改修(魚道)	魚類	③修正	・アユ(遊泳魚)を対象とした形状の既存の魚道を、ニホンウナギやゴクラクハゼ(底生魚)も遡上できる直壁部を斜路にした形状に改良する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
75	R4	経営体育成基盤整備事業	黒地(阿南市)(小松島市)	ほ場整備(水田表土)	希少植物(ミスツバ、ウスケチョウジダテ、コシガラシ)	④軽減/消失	・水田土壌の再利用を行い生育環境を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	工事内容	配慮対象	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ノカナ)	④軽減/消失	・種子を採取し育苗して、工事後の畦畔に植え戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(畦畔)	希少植物(ミズカモシゲサ)	④軽減/消失	・できる限り多くの個体を採取栽培して工事後の畦畔に植え戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚介類全般	①回避	・魚介類の供給源や生息空間として重要と思われる現況水路を一部残す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				ほ場整備(水路)	魚介類全般	③修正	・新設および付替え水路と現況水路との接合部において、魚類の移動を妨げないよう緩傾斜とする。また、排水路と河川の連続性を保つため、接続部に段差を付けない。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚介類全般	③修正	・函渠部において、段差をもうけ土砂の溜まりをつくり、水生生物の生息空間となる構造にする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
76	R4	県営かんがい排水事業(高収益型)	田野(小松島市)	ほ場整備(水田表土)	希少植物(ヒミスワラビ、コイスガラシ)	④軽減/消失	・水田土壌の再利用を行い生育環境を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚介類全般(ヌムツ、ミナミダカ、マルタニシ)	③修正	・函渠部において、段差をもうけ土砂の溜まりをつくり、水生生物の生息空間となる構造にする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備(水路)	魚介類全般(ヌムツ、ミナミダカ、マルタニシ)	⑤代償	・新設水路の擁壁を一部石積みで施工することで生物の生息空間を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ほ場整備	全般	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
77	R4	老朽ため池等整備事業	古志田池(吉野川市)	ため池堤体改修	希少植物(コカモメヅル)	④軽減/消失	・コカモメヅルの個体と種子を採取し、工事期間中個体を育成し、種子から苗の増殖を行い、工事後の堤体に植え戻す。	④軽減/消失	・種子採取後、播種し保護育成中(R4.11月) ・次年度(R5)に個体採取を予定	未
				ため池堤体改修	草原性の在来植物	④軽減/消失	・堤体に生育する草原性の在来植物は、工事の際に表土を剥ぎ取り、改修する堤体に流用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	魚介類(オオタニシ)	④軽減/消失	・オオタニシは、工事において減水する際に確認したものについて、池上流部の留水域に移動させる。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				ため池堤体改修	×外来種(ブルーギル、ウシガエル、コイ)	④軽減/消失	・工事において減水した際に、特定外来生物のブルーギルとウシガエルを駆除する。また、コイについては管理者と調整し他の場所に移す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—
				ため池堤体改修	×外来種(全般)	④軽減/消失	・維持管理において、オオクチバスやブルーギルなど特定外来生物を放流されないよう啓発を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	—